

検討を必要とする事項(未定稿)

— 介護サービスの提供体制の計画的な整備 —

桑名市市章



水と緑が交流の輪を描く様子を表現し、その中央にハマグリの姿を描き、市の文化や歴史をイメージしました。

円満に発展し快適で住み良い桑名市を象徴しています。



桑名市
イメージキャラクター
「ゆめはまちゃん」

「はまぐりのまち・桑名」をPRする夢見るはまぐりの女の子です。

洋服の三本線は、木曾三川をイメージしています。

平成26年8月25日

桑名市地域包括ケアシステム推進協議会事務局

- ① 要支援・要介護認定率
及び要支援・要介護認定者数の推計
- ② 居住系の在宅サービス
及び施設サービスの利用者数の推計
- ③ 訪問系、通所系、宿泊系等の
在宅サービスの利用率及び利用者数の推計

- 次に掲げる等の施策を講じることにより、要支援認定率及び要支援認定者数が相対的に減少する効果を見込むべきでないか。
 - ① 平成26年10月以降、多職種協働で介護予防に資するケアマネジメントを支援するための「地域ケア会議」を開催すること。
 - ② 平成27年度以降、介護予防・日常生活支援総合事業を実施すること。

居住系の在宅サービス及び施設サービスの利用者数の推計

- 次に掲げる等の施策を講じることにより、居住系の在宅サービス及び施設サービスの利用者数が相対的に減少する効果を見込むべきでないか。
 - ① 直近に定期巡回・随時対応型訪問介護看護及び複合型サービスを整備したこと。
 - ② 今後、定期巡回・随時対応型訪問介護看護、小規模多機能型居宅介護等及び複合型サービスを整備すること。
 - ③ 当面、居住系の在宅サービス（小規模多機能居宅介護等又は複合型サービスに併設される認知症対応型共同生活介護等を除く。）及び施設サービスを整備しないこと。

- 今後、小規模多機能型居宅介護等又は複合型サービスに併設される認知症対応型共同生活介護等を整備する等の施策を講じることにより、認知症対応型共同生活介護等の利用者数が相対的に増加する効果を見込むべきでないか。

- 引き続き、高齢者世帯に占める高齢者単身世帯の比率が増加する傾向にあることを踏まえ、次に掲げる効果を見込むべきでないか。
 - ① 訪問系の在宅サービスの利用率及び利用者数が相対的に増加すること。
 - ② 通所系及び宿泊系の在宅サービスの利用率及び利用者数が相対的に減少すること。
- 平成27年度以降、段階的に、介護予防訪問介護及び介護予防通所介護を介護予防・日常生活支援総合事業に移行する等の施策を講じることにより、介護予防訪問介護及び介護予防通所介護の利用率及び利用者数が段階的に減少する効果を見込むべきでないか。

- 次に掲げる等の施策を講じることにより、地域密着型サービス等に該当する訪問系及び通所系の在宅サービスの利用率及び利用者数が相対的に増加する効果を見込むべきでないか。
 - ① 直近に定期巡回・随時対応型訪問介護看護及び複合型サービスを整備したこと。
 - ② 今後、定期巡回・随時対応型訪問介護看護、夜間対応型訪問介護、認知症対応型通所介護等、小規模多機能型居宅介護等及び複合型サービスを整備すること。
- 在宅介護と連携した在宅医療を推進する等の施策を講じることにより、訪問看護等、訪問リハビリテーション等及び居宅療養管理指導等の利用率及び利用者数が相対的に増加する効果を見込むべきではないか。

- 当面、市より、県に対し、通所介護に係る指定居宅サービス事業者の指定及び更新に関する協議を求める等の施策を講じることにより、次に掲げる効果を見込むべきでないか。
 - ① 定期巡回・随時対応型訪問介護看護、小規模多機能型居宅介護等及び複合型サービスの利用率及び利用者数が相対的に増加すること。
 - ② 訪問介護及び訪問入浴介護等の利用率及び利用者数が相対的に増加すること。
 - ③ 通所介護の利用率及び利用者数が相対的に減少すること。
- 多職種協働で介護予防に資するケアマネジメントを支援するための「地域ケア会議」を開催する等の施策を講じることにより、福祉用具貸与等の利用率及び利用数が相対的に減少する効果を見込むべきでないか。

「地域包括ケアシステム」の構築は 「地方分権の試金石」と称された 介護保険制度の創設に匹敵する困難な作業です。



平成26年2月9日
「桑名の在宅医療推進の
講演会とパネルディスカッション」



平成26年2月22日
市民公開講座
「住み慣れた地域で暮らし続けて人生の最期を迎えるために
～桑名市における『地域包括ケアシステム』の構築に向けて～」

桑名市における「地域包括ケアシステム」の構築に向けて、
「オール桑名」で一步一步着実に取り組みましょう。